

情報提供日	2018年(平成30年)11月16日
問合わせ先	文化・スポーツ室文化振興課 文化財係(稲原)
	918-5629 内線 7545

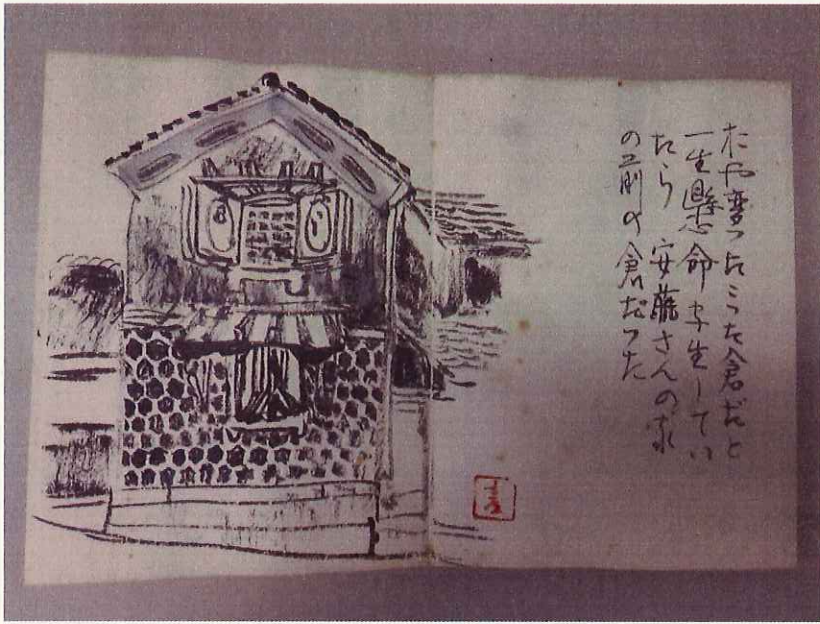
報道機関 各位

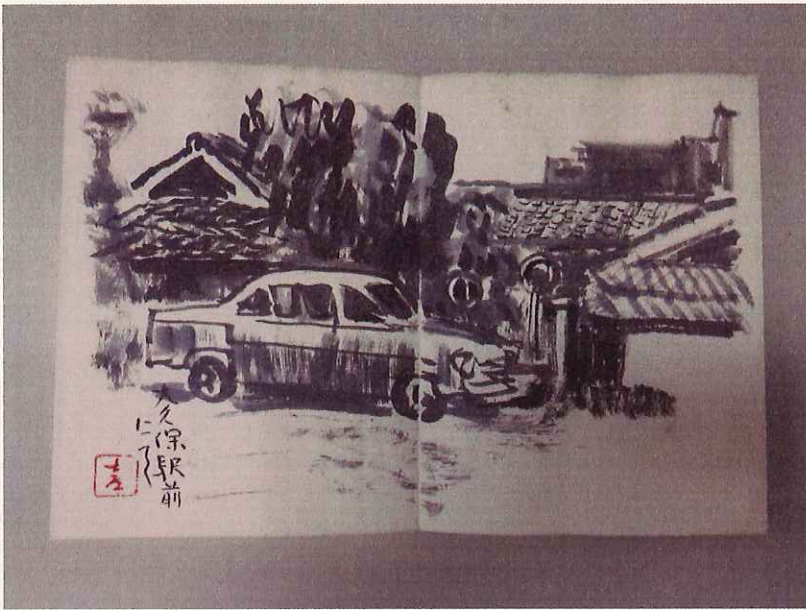
大久保の安藤家で洋画家小松益喜の水墨画集を確認

11月17日(土)からふるさと図書館で一般に公開

- 現在、明石市では、明石市史編さん事業の一環として、各地域に残る旧家の古文書等の資料の調査を行っています。その中で、大久保町で江戸時代に宿場町の本陣であった安藤家から昭和30年代に洋画家小松益喜が周辺の街並みの様子を描いた水墨画集が存在していたことが明らかとなりました。
- 画集は、小松益喜が1961年(昭和36年)に、当時の当主安藤安太氏夫妻に呈するために書いたもので、安藤家周辺の久保町の風景を18カット水墨画で描いたものです。
- 小松益喜は、1904年に高知市で生まれ、1930年に東京美術学校を卒業、1934年に神戸の街並みに魅せられ、神戸に住み、2002年に亡くなりました。「異人館の画家」として神戸の異人館を中心とした建築物の絵を数多く残した画家ですが、明石の風景を描いた作品はこれまでなく、今回安藤家から見つかった作品が初出となります。
- 絵の中には、現在も残る大久保の宿場町の街道筋や、本陣の安藤家の向いの蔵などがある一方、今は失われた酒蔵などもあり、昭和30年代の大久保町の風景をうかがわせるものとしても貴重です。
- 奥書きに「私は本気になって水墨画をはじめやうと思って最初にかいたまとまった画集である」と書いており、小松益喜の画歴の一端を知る上でも興味深い資料です。
- 今回、わかった小松益喜の画集は、11月17日(土)からふるさと図書館で一般に公開いたします。







画か佳境に入りだすと
 とたたりしとしよう
 おしすいになつた
 たこれて交得の
 二の柄をいれ
 は全貌を描けた
 色紙が全部をつ
 くせけ 餘地が
 ぶらぶら 餘地かまけ
 けけ 面白がとれ
 私日 本気になつ
 て 水玉をいれ

けーつーしと思
 て 最初にかいた
 付くかうた 直集
 亡言 夢 阿れ
 一言下
 さいれを
 終りとする
 十 二 五 七
 十 二 五 七
 十 二 五 七
 十 二 五 七